



時期	年間	時間	2時間程度
難易度	☆☆☆	対象	どなたでも

漁火のつどい キャンプファイヤー (CF)



<活動の概要>

大自然の中で炎を囲み、仲間と過ごすことで、火と人間の関わりについて思いをはせたり、スタンプを楽しみながら友情を深めたりします。大浜海岸での「漁火のつどい」は、若狭湾でしかできない活動の一つです。また、研修のまとめや自己を深く見つめる場になります。

<活動の場所>

大浜海岸、岩の沢野外炊事場、島の越野外炊事場、夕日の広場

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立若狭湾青少年自然の家

活動のねらい

- 火と人間との関わりについて思いをはせる。
- 大自然を感じながら、自分を表現したり、自分を見つめ直したりする。
- お互いに理解し合い、協力し合って親睦を深める。
- ルールを守って行動し、安全に対する意識を高める。

準備物

自然の家で準備しているもの	個数	場所	団体(個人)で準備するもの
女神(火の神)の衣装 ワイヤレスアンプ・マイクセット 延長コード(ドラム式) CDラジカセ 鉈(なた) キンドリングクラッカー	8着 4台 2台 8台 17本 2台	事務室	軍手 新聞紙 マッチ 懐中電灯 トーチ棒(使用する場合)
漁火台 バケツ	4台 多数	ピロティ・各野外炊事場 ピロティ	
薪割り台 火ばさみ ※薪(1.5H~2Hで6~8束が目安)	多数 多数	薪置き場・各野外炊事場	
※灯油(漁火台1台につき500ml程度が目安)		食堂事務室	

※は食堂での販売品になりますので、事前に必要数を注文してください(軽微な変更は当日でも可能、薪は持ち込み可能です)。

事前準備

- 実施にあたり、あらかじめ役割を分担しておくことをおすすめします。

<参加者の役割分担の例>

	エールマスター(司会)	点火・分火係	プログラムリーダー・音響係
主な内容	キャンプファイヤーの司会、進行役を務めます。 【1名~2名程度】	火の神(女神)から分火してもらい、火床に点火します。 【各グループ1名程度】	スタントを指揮したり、音響操作したりします。 【5名程度】

<指導者の役割分担の例>

	火の神・女神	ファイヤーキーパー	準備・後始末担当
主な内容	トーチを運んだり、点火係に分火したりをします。 【1名:団体代表者等】	進行を考えながら、火の大きさを調整します。 【1名~2名程度】	実施前の薪など物品の準備、実施後の残灰の後始末など。 【3名程度】

※各団体によって、上記を参考に必要な役割を検討してください。

活動内容(手順)

	項目	内容	備考
活動前 (1時間前が目安)	準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漁り火台を実施場所まで運搬し、薪を組んでください。 ○ 薪の量は1つの漁火台で、1.5時間～2時間で6束～8束程度が目安になります。(人数と時間による) ○ 万が一、無線が通じない場合の為に連絡が取れるように、携帯電話番号を団体間で共有しておいてください。 ○ 荒天(暴風、大雨、雷など)の場合は実施できないことがあります。 	
10～15分	活動方法の説明と安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加者の人数の把握を行ってください。 ○ 火に近づきすぎないこと、足元に気をつけることなどを参加者に伝えてください。 ○ 有事の際の対応を必ず参加者に伝えてください。 	
50分～60分	活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 団体が決めた内容でお楽しみください。 ※ 火の取り扱いには、十分注意してください。 	
15～20分	ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参加者の人数と健康状態の確認をしてください。(何かありましたら、すぐに事務室に報告して下さい) ○ 時間があれば1日のふりかえり等をするのもおすすめです。 	
20分	片付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ 貸出備品を必ず事務室に返却してください。 ※ 薪は灰になるまで燃やし切り、所定の場所に捨ててください。その後、水で完全に鎮火させてください。捨てる場所は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・【岩の沢・夕日の広場】 野外炊事場のペール缶に入れ、屋根の下に置く。 ・【島の越】 野外炊事場の灰捨て場に置く。 ・【大浜】 本館南側にある薪置き場にある、ペール缶に入れ灰置き場へ置く。 ※ 活動時間内で燃え切らない場合には、翌日の朝に灰を捨ててください。 ※ 使用しなかった薪は、ひもをほどいていないものだけに限り、返却することができます。 	

ふりかえりの視点

- 自然の中でどんなことを感じたか
例) 火について、聞こえた音、見えたもの、感じた自然など
- 活動をするにあたって協力したこと
例) どんなことを協力できたか、協力するために意識したことは何か
- 1日をふりかえってみての感想
例) 頑張ったこと、発見したこと、これから挑戦してみたいことなど

指導上の留意点

- 環境保護の観点から、必ず漁火台を使用して活動してください。
- トーチ棒(各団体で必要に応じて準備)を使用する場合には、火のつけ方、持ち方には、事前に各団体から参加者に指導していただくなど、十分注意してください。
- 施設敷地内での花火は禁止しておりますので、ご遠慮ください。

漁り火台の運び方

- 乗せる時： 漁り火台を逆さにして、台車に乗せてください。



- 降ろす時： 台車をななめにして降ろしてください。



活動場所

岩の沢



薪置き場



掲揚台コンセント



大浜海岸



ピロティ(漁火台、大浜用薪)



島の越コンセント



※男子トイレ横にあります

島の越



島の越 薪置き場・灰捨て場



AEDの設置場所
事務室・トビーホール・船庫



外灯コンセント



夕日の広場



大浜 灰捨て場



キャンプファイヤーの薪の組み方について

国立若狭湾青少年自然の家



なたで薪を割る。
ポイント：
◆なたを持つ手は素手。
◆木を持つ手には軍手を2重。

薪は、全部で6束程度準備します。
2束程度を3種類の太さに割っていく。



割り箸くらいの太さ。



1〜2センチ角くらいの太さ。



3〜4センチ角くらいの太さ。



ポイント：
◆割りばしくらいの太さの薪は、太い薪2〜3本分で十分です。
◆薪を割るときは、薪割り台を使いましょう。
◆鉋を使わないときは、薪割り台に刺しておくか、早めに片付けましょう。

◆指導者が見ていないときに、鉋を使つての怪我が多いです。必ず指導者が見ていてください。

割り箸くらいの太さの半分は、長さを半分くらいにする。



新聞紙を真ん中で折り、チョウチヨのようにし、折り、それを2つ重ねて、山を作る。
下を部分を少し割いておくと火が付きやすくなる。



① かがの下に薪を置いて土台を作る。



② 新聞紙の芯を置く。



③ 短く細い薪から順番に立てる。



④ 時々両手で立てた薪を押し、倒れないようにする。



⑤ トーチを差し込んだり、火を付けるポイントには、開けておく。



⑥ 一番外側に太い薪を立てる。その時に木の表面が外を向いていると見た目がよい。



上から見るとこんな感じに。火を付けると、炎がまっすぐ上に上がります。



火の回りに薪を並べ、ゲームなどの際に、ここから入らないゾーンを作るとよい。